

# ～LINE BOTを利用した盛岡の魅力発信～

平成29年地域政策研究センター地域協働研究【ステージⅠ】採択課題

課題名：若者に対する「盛岡もの識り検定」を通じた地元学の普及と継続

研究代表者：ソフトウェア情報学部 准教授 高木正則

課題提案者：盛岡商工会議所 菊池俊勲

研究メンバー：福坂祥基（ソフトウェア情報学部）

技術キーワード：BOT、人工知能（AI）、人材育成、地域振興、地域コミュニティ

## ▼研究の概要（背景・目標）

- 平成18年から盛岡市のご当地検定「盛岡もの識り検定」（もりけん）が実施されている。
- これまでの受験者数は2000人以上、合格者は1000人以上いる。
- 近年は10代、20代の若者の受験者数が減少傾向にあり、若者の地域への関心の低下が危惧されている。
- もりけん合格者の活躍の場が限られていることが課題となっている（課題2）。さらに、検定試験では毎年必要な問題数の確保が急務になっており、作問にかかる主催者側の負担が問題となっている。

## ▼研究の内容（方法・経過）

- 1,000人を超えるもりけん合格者のコミュニティを形成し、合格者だから知る盛岡の魅力や観光情報を収集する。
- 若者の多くが利用するLINEでもりけんの過去問題やもりけんのPRなどを自動発信するBOTを開発する。
- 過去に出題されていない問題を自動的に生成する問題自動生成システムを開発する。

## ▼研究の成果（結論・考察）

- 1.LINE BOTを開発した（図3）
- 2.問題自動生成システムを開発した（図4）
- 3.岩手県立大学の授業で問題自動生成システムを利用した作問演習を实践し、作問負担の軽減効果を示した。

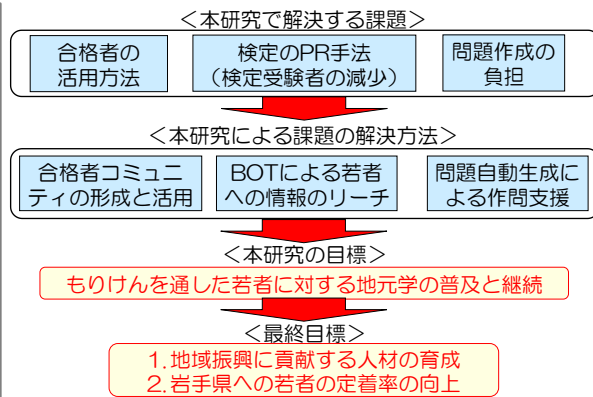


図1 本研究の全体概要

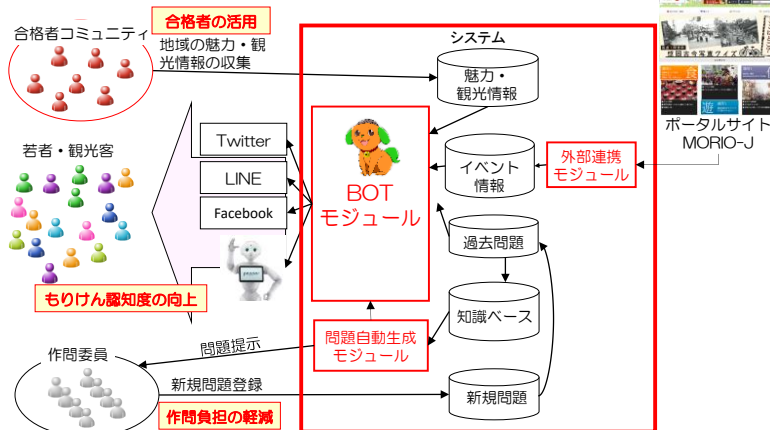


図2 システムの概要図



図3 LINE BOTの画面

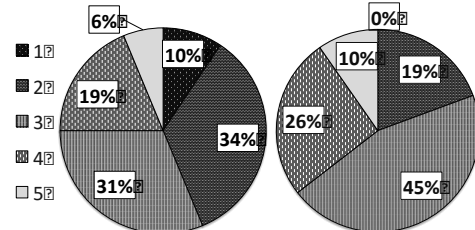
## ▼おわりに（まとめ・今後の展開）

今後はLINET BOTで盛岡の魅力や観光情報、イベント情報も自動発信できるようにし、より多くのユーザに使ってもらえるように、各種イベント等で周知を行う。



図4 問題自動生成システムの画面

問題の作成演習の難易度についてどうお感じましたか？(1:易～5:難)口



Aチーム(自動生成で作問) Bチーム(手動で作問)口  
図5 作問の難易度に関するアンケート